

地域社会との緊密な連携を築こう

～ 地域全体で心豊かな生徒を育てよう ～

岡崎市立六ツ美中学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、かつては碧海郡に属し、のどかな田園地帯だった。昭和 37 年に岡崎市に合併し、急激な人口増加により、六ツ美中学校は生徒数が 1,500 名を超える県下でも有数のマンモス校となった。平成 4 年には、六ツ美北中学校が新設され、分離独立をした。そして、現在の六ツ美中学校区は六ツ美南部小学校区と六ツ美中部小学校区から成っている。その南部小学校区には新興住宅が建ち並び、人口も急増し、都市化へと様変わりをしてきている。また、中部小学校区は人口の増減も少なく、三世代の家庭が多い農業地域であるが、フタバ産業やマキタなどの工場誘致により、少しずつ都市化の傾向を示してきている。

2 研究のねらい

本校は、校歌の一節である「歩みたしかに」という生活信条を基にして、基本的な学校生活習慣の確立しながら、豊かな心や主体性を育むことを目指している。そこで、P T Aとして、生徒と関わる機会を設け、共に活動することによって、心豊かな生徒を育む一助になりたいと考えている。

あ…あいさつを心をこめてします
ゆ…ゆとりを持って生活します
み…みんなの心を理解します
た…ただし
し…姿勢を心がけます
か…感謝の気持ちを忘れません
に…にげずに、めげずに最後までやり抜きます

3 研究の仮説

P T A、学校、地域が地域全体で連携できる P T A活動を推進すれば、心豊かな生徒を育むことができるであろう。

4 研究の方法

生徒と P T A、学校、地域が共に活動できる場を計画的に設定する。



5 研究の実践

(1) 登校時の交通安全指導と長期休業中の街頭補導

生徒の約 8 割が自転車通学をしている。幹線道路を横断したり、歩道のない道路を通ったりするため、常に安全に注意を払う必要がある。そこで、毎月 10 日に校区の 18 か所で、保護者や教職員、交通指導員が協力し、生徒の安全を見守っている。また、長期休業中には、P T A地区委員が、校区の公園や広場、店舗などを巡回している。次の文は、保護者の感想の抜粋である。

交通安全指導の当日、交差点付近に立ち、生徒たちが通学するのを待ち構えていました。すると、生徒たちから「おはようございます」と元気のよい挨拶が飛んできました。大勢の生徒の挨拶を聞くことができ、生徒の様子がよく分かりました。

地域全体で生徒たちと直接関わりながら、見守り育てていくことの大切さが分かった。

(2) 資源回収

学区の16地区で、生徒と保護者、教職員、地域の方々が参加し資源回収を10月に行った。生徒は地域の方と協力して地区を回り、新聞や段ボール、雑誌等を集め、集積場所では、分別しながらコンテナに積み込んだ。3年生は下級生をリードしながら率先して活動した。また、地域の方が生徒に「〇〇君？りっぱになり過ぎて分からなかった」と声を掛ける場面があったが、生徒と地域の方が交流するよい機会となった。

(3) P T A 奉仕活動

学区の19地区で、生徒と保護者、教職員、地域の方々が参加し、通学路や公園、神社などの草取りやごみ拾いを行った。例年は夏休みに実施しているが、熱中症の心配があるため、今年度から10月に実施することにした。ある地区では、事前に地域の方が草刈り機で刈っておいてくれた草を集めてごみ袋に入れた。その数が481袋にもなった。大変な作業であったが、生徒から「こんなにたくさんの草は自分たちだけでは集めきれなかったと思う」や「通学路がすっきりして見通しもよくなり、安全に登下校できそう」という声が聞かれ、地域の方の協力があって自分たちの生活が守られていることを生徒が実感できる場となった。



(4) 文化祭のP T Aバザー&校内長距離走大会の豚汁

文化祭で食品バザーを行い、長距離走大会で豚汁をはそりを用いて調理して振る舞ってきたが、コロナ禍では感染予防の観点から実施を控えていた。今年度は、制限が緩和されたため、復活した。生徒たちが「ありがとうございます」や「おいしいです」と言いながら笑顔で食べる様子から、生徒と保護者の関わりを深める場となっていると感じた。



(5) 卒業式でバルーンリリース

卒業式終了後、P T Aの主導でバルーンリリースを行うことが伝統となっている。卒業生の夢や希望をのせたバルーンを空高く上げるイベントを今年度も計画している。

6 研究の考察

P T A、学校、地域が地域全体で連携し、生徒と共に活動できる場として上記の活動を行ったことは、生徒が地域の多くの方との関わりの中で見守られながら生活していると実感できたことから、心豊かな生徒の育成に有効だった。

7 成果と今後の課題

昨年度までは、感染症予防対策のために様々な行事や活動が制限されてきたが、今年度からは制限が緩和され、多くの活動ができるようになった。そんな中で、P T A活動をどのように実施することが生徒のためになるのかを考えながら、計画、実行してきた。その結果、生徒と共に活動することで、生徒の一生懸命な姿や笑顔を見ることができ、P T A活動が心豊かな生徒の育成の一助になったのではないかと考えている。そして、今年度の実践をさらに発展させ、心豊かな六中生を育てていきたい。